

卓 話

平成 26 年 8 月 26 日

『ロータリー財団と地区補助金』

会員増強委員会 大橋哲也委員長

ロータリー財団活動に於ける意義と理想像

ロータリー財団の標語：

「世界でよいことをしよう」(Doing good in the world)

ロータリー財団の使命：

「ロータリアンが、(人々の)健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」(2007年4月規定審議会で承認)



このロータリー財団の使命を達成するために6項目の重点分野(①平和と紛争予防／紛争解決、②疾病予防と治療、③水と衛生設備 ④母子の健康、⑤基本的教育と識字率向上、⑥経済と地域社会の発展)が定められました。

世界中の貧困や飢餓が減少し、社会が向上し、世界が平和にならない限り、私たちの真の平和はありません。私たちロータリー財団が地域社会や国際社会への貢献をさらに強化・増大していくためには、奉仕活動の充実と資金面の援助が大変重要になります。

1917年、「世界でよいことをするために、ロータリーの基金を作ろうではないか」というアーチ・クランプの提案によって、26ドル50セントの寄付金から始まったロータリー財団は、約100年の間に、資産残高：8億290万ドル超と大きく発展して参りましたが、様々な問題点をも多く抱えるようになってきました。

「2017年にロータリー財団の100周年を迎えることを踏まえ、管理委員会は世界の最も差し迫ったニーズに対して、迅速、効果的、かつ戦略的に応えられる、活力にあふれ、未来へのビジョンを備えた財団を築き上げるための計画を立案しました。これが『未来の夢計画』であり、その目標は、補助金の手続を簡素化し、大きな成果とその長期的な持続が望めるプロジェクトにより多くのリソースを費やし、財団の業績に対する一般の人々の認識を高めることである」と未来の夢委員会の解説に述べられております。

今ロータリー財団では、「未来の夢計画」による大きな変革が既に始まっております。財団補助金は地区補助金(DG)・グローバル補助金(GG)・パッケージグラント(PG)の3本立てに簡素化されました。この「大きな変革」に対応していくためには、我々自身の頭の切替えが必要になってまいります。石垣智康ガバナーは、ゲイリー・ホアンRI会長のテーマ「ロータリーに輝きを(Light up Rotary)」を受けて、地区目標を「耳を傾け、ロータリーに活力を」と定められ、「世界の120万の仲間がキャンドルに火を灯せば大きな力になる。これによってロータリーは輝く。どのような火を灯すかは、ロータリアンなら誰でもわかっているはずである。」というゲイリー・ホアンRI会長の言葉を背に受けて元気を出し、私ども第2630地区の発展に一人一人の力をお借りしたいと思います。」と述べておられます。

ゲイリー・ホアンRI会長は、国際協議会でのスピーチの中で、「・・・ポリオを撲滅して『ロータリー

に輝きを』もたらし、歴史に1ページを刻みましょう。ロータリアンのこれまでの勢いをもってすれば、今後数年以内にポリオを世界からなくすことは、明らかに可能です。**ポリオ撲滅**を実現することの重要性を、今こそ、ご友人、同僚、地元の議員や政府関係者に伝えてください。ポリオプラス基金に寄付し、他の方々にもそれを勧めてください。ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団からの新しいチャレンジに応えることで、ロータリアンの資金を3倍に生かすことができます。この史上最大の、公共・民間のパートナーシップにぜひともご参加いただき、ポリオのない世界が実現した際には世界中の人たちと誇りと喜びを分かち合いましょう。・・・」と述べておられます。

また、ロータリーニュースは、国際協議会での様子を次のように報じています。「**【ただ座って闇を呪うよりも、ローソクを灯したほうがいい】**という孔子の言葉を引用したゲイリーC.K.ホアン国際ロータリー会長エレクトは、2014-15年度のテーマを**【ロータリーに輝きを (Light up Rotary)】**とすることを発表した・・・ポリオ撲滅活動の現状については、今の勢いを保てば、2018年までにポリオを完全に撲滅することが可能、と述べました。『ポリオを撲滅すれば（必ずや撲滅は達成できます）、ロータリーが偉業を成し遂げる力を備えた組織であることが実証されるでしょう。また、ポリオ撲滅後に取り組む次なるチャレンジのための土台が整えられるでしょう。何より重要なのは、永遠に続くプレゼントを世界に贈れるということです』・・・ポリオ撲滅の闘いを続け、地元地域の人々の模範となり、会員基盤を成長させることによって、ロータリーを今までよりも輝かせることができると、ホアン会長エレクトは願っています。『**【ロータリーに輝きを】**、これが次年度のテーマですが、これはテーマ以上の意味があります。私たちがロータリーでどう生き、どう考え、感じ、活動するかが、この言葉に込められています。すべてのクラブ、地区、そして活動するすべての国で、日々人々のために何ができるか。それを表しているのです。』と。

新しい「**未来のロータリー財団**」では、今までのような単年度の計画ではなく、地域社会あるいは国際社会に貢献するためには、如何なるプロジェクトが必要かを見定め、綿密な実施計画を立案して、それに則って実施するという**ビジネスサイクル(計画年度及び実施年度)**を確立しなければなりません。財団補助金を有効に利用するには、単年度の行き当たりばったりのプロジェクトは成り立ちません。このことを明記していただきたいと思います。我々自身の大変革が要求されているのであります。

今期の地区財団研修セミナーでは、「**ロータリー財団未来の夢計画による新補助金モデルへの対応**」をテーマとして、2013-14年度から始まっている「**ロータリー財団の補助金モデル（地区補助金・グローバル補助金・パッケージグラント）の有効利用**」について具体的に研究して、「各クラブが如何に活用していくべきか」について考えてもらおう一助としたいと思います。「第1回地区財団研修セミナー（7月27日）」においては、スモールグループ討論を取り入れ、各クラブ委員長からの活動内容当の報告や意見交換が活発になされるように企画しております。その結果として、ロータリー財団への理解が一段と深まって、財団補助金の有効利用が図られるとともに、ロータリー財団が自分たちのものであるという自覚が芽生えて、年次基金・恒久基金・ポリオプラス基金への寄付が一段と増進されるようにつなげていきたいと思います。